

ぶらうたなす

NO.10

睦月
(むつき)
長井高等学校
図書委員会
図書館
2026.1.15

初詣よりも初読書

みなさん、明けましておめでとうございます。2026年が始まりましたね。みなさんはどのような気持ちで過ごしているでしょうか。新たな抱負を決め、やる気に満ちている人や、課題が終わらず焦っていた人など様々いると思います。そんなみなさんに初詣ならぬ、初読書をオススメします。

新たな年になりたての1月は、新たな目標を立てるのにぴったりな月であり、本はそれを手助けするツールのひとつとなります。今年してみたいこと、憧れの人、なりたいもの、それを本で見つけてみましょう。

(2-1 図書委員)



図書館長より

押忍！ 図書館長です。突然だが、皆は早稲田大学にどんなイメージを持っているだろうか。「慶應義塾大学と双璧を成す私学の雄」？ 「作家（村上春樹、重松清、朝井リョウ…）、芸能人（タモリ、堺雅人、小島よしお…）、アスリート（羽生結弦、和田毅、井上直紀…）等々、様々な分野でスターを輩出する名門」？ 同僚や教え子に早稲田が何人かいるが、私が彼らから受けた印象は、おしなべて「ちょっと〇〇な人」だった。前置きが長くなつたが、「〇〇って何だよ」と訝った諸君に今回紹介するのは、早大探検部（！）OBである高野秀行（たかの・ひでゆき）の、『世界のシワに夢を見ろ！』（小学館）だ。

「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをし、誰も書かない本を書く」というポリシーを掲げ、高野青年は「世界のシワ」——先進国がグローバル化という名のアイロンをビシッときかせた場所だとすれば、その逆の「シワだらけ」の地域——に頭から突っ込んでいく。そこで待っていたのは、西歐的「普遍」を鼻で笑う、現地人の日常だった！

本作には、私が君達に、そして私自身にも欠けていると思う大切なあれこれが、たっぷりと詰まっている。とりわけ、将来の夢が「口に出しているもの」と「胸にしまっているもの」とで食い違っている人は、騙されたと思って一読してみるといい。「本当に騙された！」と憤慨しても、責任は取らないけどね。

ただし、二つだけ注意しておきたいことがある。一つは、05年に刊行、09年に文庫化された本作は、今では古書か電子書籍でしか手に入らないこと。もう一つは、97年に探検部の学生が某国で殺害されるという痛ましい事件があったということ。当時まさに弱冠だった私も、君達の御尊父や御母堂と同年代になってしまった。浪漫を消費するだけの生き方など決して推奨したくはないが、笑顔で「行ってこい！」とも、とても言えない。ねえ、我々大人はどうすればいい、若い君？

図書委員のおすすめの本

『優しさと勇気の育てかた

夜回り先生 21 の生きる力』

水谷修：著
日本評論社

この本は「夜回り先生」等で有名な水谷修氏の人生においてのアドバイスが語られる心温まる本となっております。『夜回り先生二十一の生きる力』と題して悩んでいる若者達に手を差し伸べてきた実績をもつ水谷修氏だからこそ伝えられるメッセージを実話をもとに読むことで物事の真意と今まで気づかなかつた問題に向きあ合うことが出来ます。読者として子どもだけでなく親や大人になった後に命の重さと責任が理解出来ていないのが実情だと感じています。実際、水谷氏が危惧している通りに年々未成年の自殺者数は増加傾向にあり、近年はオーバードーズ等の問題も増えています。

1人1人の命と人生に関わる問題ですので、この本が多くの方の手に渡ってほしいと思います。
(2-1 図書委員)